



京都・鷹峯で伝統的な京野菜の栽培を受け継ぐ樋口昌孝さん、豪宏さん親子

CONTENTS

クローズアップ この経営者！ 2 ページ
うまい京料理には うまい野菜を
— 400年続く伝統野菜の栽培をいまに伝える —
樋口農園（京都市北区）

チャレンジ農業法人 4 ページ
淀苗農家転じて 九条ねぎを企業経営
— 従業員とともに成長する組織づくり —
株式会社 村田農園（久御山町）

農地の管理、お困りではありませんか？ 6 ページ

次世代型集落営農
「集落連携100ha農場づくり事業」が始動 7 ページ

農業者年金制度のポイント 7 ページ

農業法人ニュース 8 ページ
— 京都府農業法人経営者会議の取り組み —
■ 令和3年度京都府農業法人経営者会議総会開催

編集局から 8 ページ

クローズアップ

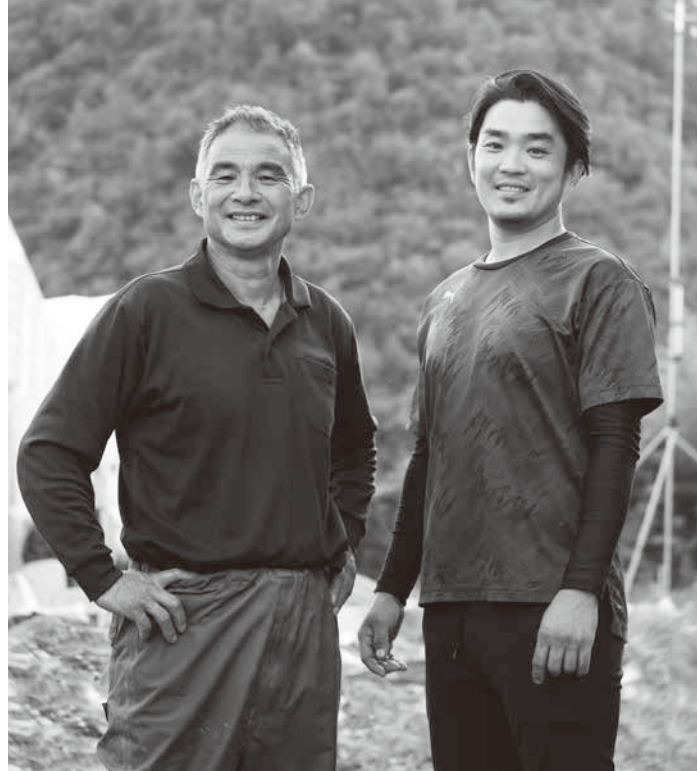
この経営者！

うまい京料理には うまい野菜を

—400年続く伝統野菜の栽培を
いまに伝える—

京都市北区・樋口農園

樋口 昌孝さん(65)・豪宏さん(37)



樋口農園のある鷹峯は丘陵地。400年前からこの地で農業を営む「買いたい」と言ってもらえる京やさいの継承

たかがみね
京都・鷹峯で400年にわたって京の伝統野菜を守り続けている「樋口農園」。当代の14代目、樋口昌孝さんが手がける野菜は料亭やレストランの料理人から高い評価を得る一方、子どもたちの食育にも力を注ぐ。後継者(15代目)愛知県立農業大学卒業後、就農17年目の豪宏さんも経営継承へ向けて、父から受け継いだ栽培技術に磨きをかけている。

評判の「樋口さんの野菜」

市街地の北西部に位置する鷹峯地区は丘陵地で、古くから京野菜の産地として知られる。かつて若狭へ続く「鯖街道」の入り口、鷹峯街道沿いを歩くと、大きなオクラや肉厚のパプリカ、赤くなった鷹峯とうがらしなど、樋口さん宅の軒先に野菜が並べられた直売スペースが目に入る。いずれも裏にあるハウスの朝採りで、近所の人々が代わる代わるお目当ての野菜を買っていく。

「うちのキュウリは白い粉を噴くんよ。一度食べて

みいーて。絶対うまいから」と昌孝さんがお客さんに差し出す。スーパーの売り場ではなかなかお目にかかれない白い粉が特徴のブルームきゅうりは、埼玉の種苗会社から取り寄せたこだわりの品種である。

昌孝さんは幼い頃から母の「振り売り」を手伝い、お客さんのさまざまな反応を間近で見てきた。うまい野菜をつくると、お客さんの言葉が「買うてあげるわ」から「分けてもらってもいい？」に変わった。この言葉が聞きたくてうまい野菜づくりに励み、いまでは全国の名だたる料亭やレストランの料理人が「樋口さんの野菜」として太鼓判を押すほど、その魅力が知られるところとなった。



味に妥協はない—その姿勢は親から子へ



市街地農業は、近隣住民への配慮と理解が欠かせない



レストランのシェフも農作業の手伝いに



排水性を高めるためイチゴの畝は高くしている

京料理を支える存在をめざして

イチゴの自動販売機。
今年もシーズンが間近だ

直売にこだわり店舗を運営

野菜づくりに妥協はない

うまい野菜の秘密は土にある。畑は深く掘り、排水性を高める。土の検査には投資を惜しまず、土壤消毒の代わりに6種類の有効菌を投与、これにより青枯れ病がほとんどなくなったという。土づくりの後は、気候風土に合わせた丁寧な栽培を心掛ける。そんな姿勢にほれ込み、農園へ農作業の手伝いや収穫に足を運ぶ料理人も少なくない。

息子の豪宏さんは「面倒で後回しにしたくなる作業でも、出来るときにケリがつくまでやる、中途半端なことをしない父の姿勢が私も身に付きました」という。親から子へ、うまい野菜づくりの精神は脈々と受け継がれている。

昨年、豪宏さんが栽培している甘みの強いイチゴ(章姫)の自販機を設置したところ、近所の子も大人気だったそうだ。おかげで親子連れから気軽に声をかけてもらえるようになり、「私にも子どもが生まれて、より安心でおいしいものと思うようになりました」と豪宏さん。



ただ今日、市街地で農業を行うのは容易なことではない。水やりのポンプを駆動音の小さいモーター式にしたり、トラクターを動かす際は前もって周知し、出来る限り短時間で済ませたりするなど、近隣への配慮は怠りない。

経営農地は、鷹峯の70a(ハウス13棟)のほか、京都大原・桂と亀岡市で新たに取得した農地を合わせて約2ha強。働き手は昌孝さんと豪宏さん、昌孝さんの妻・千景さん(64)とパート1~2名、それに常時2名のボランティアが携わる。

年間を通して、自家採種の鷹峯とうがらし、鹿ヶ谷かぼちゃ、鷹峯太ネギ(九条ネギ)など京野菜を中心に約40品目を栽培し、販売額は約2,000万円。農園の野菜は一般の市場にはほとんど出回らない。料亭、レストランに直接卸すものと、「好きなときに買いに来てもらえるように」と昌孝さんが2015年に開設した直売所「京野菜時待ち食」や、一部の生協店舗・イオン五条店で販売しているだけ。

また、樋口農園では子どもたちの食育にも意欲的に取り組んでいる。近隣の小・中学生の農業体験を受け入れているが、そこでは真夏のしんどい水やり体験も。大人に向けても昌孝さんのレクチャーを受けながら旬の京野菜を楽しむ「樋口会」を開いている。

「僕自身もっとスキルアップしないと。人に教えられるようになってこそ一人前。時待ち食を京野菜の食べ方などを伝えていく拠点にしていきたい」と豪宏さん。父親譲りの“熱血農家”の顔をのぞかせた。



直売所「時待ち食」好きなときに買いに来て一京野菜の知恵も一緒に



淀苗農家転じて 九条ねぎを企業経営

— 従業員とともに成長する組織づくり —

スタッフみんなが楽しく生き生きと



株式会社 村田農園 久御山町

- 代表取締役 村田正己
- 設立年月 2015年2月
- 資本金 500万円
- 労働力 社員5名、家族3名(父母・弟)
パート15~20名(うち外国人技能実習生3名)
- 事業内容 「京野菜など各種野菜・野菜苗の生産販売」
調製施設: 2棟320㎡、ハウス(50m×5m): 22棟
九条ねぎ(露地): 11ha、賀茂なすなど京野菜・パールコーン等: 4~5ha
野菜苗(淀苗): 50a、稲作 2ha

出荷額1億円を機に法人化

久御山 IC の西側、基盤整備された畑とハウスの立ち並ぶ区域の一角に(株)村田農園の九条ねぎ調製出荷施設がある。高く積み上げられたコンテナには朝収穫されたネギがいっぱい入っており、ネギの独特の香りが辺り一面に満ちていた。

代表取締役の村田正己さん(46)は大阪でスポーツインストラクターをしていたが、27歳の時、両親から「農業を継いでほしい」と言われ、実家の野菜苗(淀苗)農家を継いだ。父や先輩農家などに教わりながら、「就農して10年

間は夜中までがむしゃらに働いた」と村田さん。

九条ねぎは父の代から徐々に導入していたが、正己さんの代になって本格的に淀苗から九条ねぎへシフト。2015年、年間出荷額が1億円になったのを機に法人化した。順調に規模拡大を重ね、現在、11haで生産している九条ねぎを中心に、賀茂なすなど20品目以上の野菜や淀苗、米を手がけながら、年々、順調に生産額を伸してい



妻・優子さんもパールコーンのPRに一役



両親も作業を手助け。左は父・乙己さん(76)、右は母・幹子さん(72)



加工・業務用に日量1.5tを出荷

る。このうち約7割を九条ねぎが占め、加工・業務用に1日平均1.5tを出荷している。

地域に広がるパールコーン

「古き良き伝統と新しきものとの融合」―事務所で大書された農園の運営方針。村田さんは、九条ねぎの伝統を守りながらも常にチャレンジを呼びかける。

「新しきもの」の1つが、近年力を入れて栽培している農園オリジナルの純白のトウモロコシ「パールコーン(ホワイトコーン)」だ。「お客さんがあっと驚くような商品を」と、8年前から試行錯誤を繰り返し、ようやく本格生産を開始。周辺農家にも生産を呼びかけ、今夏は農園で9万本、農家グループ合わせて計16万本の収穫があった。

京都市内の百貨店でパールコーンの直売会を開催、妻の優子さん(46)やパート従業員が店頭に立ち、お客さんの反応は上々。また、農園内では「パールコーン狩り」(4日間・定員各20名)を今年初めて実施した。地元久御山町のふるさと納税の返礼品にもなっており、村田さんは「来年に向けてPR体制の準備はできた」と手応えを感じている。

「一緒に働く従業員は宝」

両親が育苗づくりの繁忙期に近所の人をパート雇用していた経験から、それを生かしつつ組織運営を行っている。

農園では家族以外、5名の社員を抱える。パートは常時15~20名。ほかに実習生が3名いる。男女比はほぼ4:6で、露地栽培の作業は男性、調製・出荷作業はもっぱ

ら女性が受け持つ。

村田さんが心掛けているのは、トップダウンではなくボトムアップ、一人ひとりが考え、意見を出し合えるような職場づくりだ。朝礼やミーティングなどコミュニケーションの場で情報を提供し、個々の仕事の向上につなげてもらう一方、それぞれの生活環境やライフステージに応じて、できる限り雇用、給与体系に反映させている。

広い農園内を行き来するための共用の自転車、ゆったり休息ができる広い事務所、パールコーンの収穫時にはみんなで食べて出来栄を評価し合う。「従業員から仕事を楽しんでいるって言ってもらえたときはとてもうれしい。長く勤めてもらえる会社づくり、そのためのしっかりとしたルールづくりと、やるべきことは多い」と村田さん。「一緒に働いてくれる従業員は宝」が持論だ。

競争&共存で経営力の底上げ

農業を取り巻く環境が厳しくなり、地域全体で伸びていこうという風潮が薄れているなか、村田さんは「競争の共存」が必要だと感じている。「競争は相手に打ち勝つことではない。共存というルールがベースにあって、お互いに高め合うことが成長につながる」という考え方に立つ。

京都府農業法人経営者会議の会長でもある村田さんは、他府県の農業者との交流で刺激を受けることが多く、自身の農業や経営に対する見方も変わってきたという。「失敗を恐れず、新たなアクションを起こすことがチャンスを生む」と説く。「全国的に知名度のある京野菜というブランドを生かし、地域の経営力が底上げされるような仕組みをつくっていききたい」。それはリーダーとしての目標である。



「両親が築いてきた経営基盤に感謝です」 周辺農家との関係を大切にしながら、産地のブランディング取り組む



従業員全員が成長を感じられる会社



「社員の生活を守る責任がある」

◎農地の管理、お困りではありませんか？◎

大切な農地を守るため 「京都府農業会議」がお手伝いします！

農地中間管理機構がお約束する 4つの安心

- ① お預かりした農地は担い手の協力を得て、良い状態で保全します。
- ② 契約の満期が来ればキッチリと農地をお返しします。
- ③ 市町村・農業委員会等と協力して借受者を選定します。
- ④ 相続税納税猶予の特例農地・農業者年金の特定処分対象農地もお受けできます。

農地中間管理事業の活用のメリット

- 農地中間管理機構の借受公募の応募者から適正に選んだ担い手に貸し出します。
- 賃借料は機構が徴収・支払いをしますので、手間がかかりません。
- 契約期間が終わったら農地は確実に戻ります。
- 要件を満たせば、機構集積協力金を受け取ることもできます。

▶ 農地を借り受ける基準があります！ ◀

- ① 市街化区域内の農地等でないこと。
- ② 機構が公募する担い手等の借受希望者がいること。
- ③ 貸付希望農地の賃借料が適切であると判断されること。
- ④ 農地中間管理事業により担い手の営農効果があがると認められること。
- ⑤ 再生不能と判断される遊休農地などでないこと。

※借入期間は原則「10年以上」とします。ただし5年以上も相談可能です。

●私たち現地推進役がお伺いします。

地域ブロック	担 当 市 町 村	現地推進役	連 絡 先
京都乙訓ブロック	京都市、向日市、長岡京市、大山崎町	車 古 宏 史	080-4943-2969
山城ブロック	宇治市、久御山町	奥 村 一 志	090-6571-3464
	城陽市、京田辺市、井手町、木津川市、笠置町	今 井 久 遠	080-9159-4231
	八幡市、精華町	大 西 隆 之	090-2922-4615
	南山城村	森 嶋 徹	080-4213-4680
	宇治田原町、和束町	上 辻 久 利	080-3684-0269

南丹ブロック	亀岡市	森 田 一 三	090-9175-4664
	南丹市	原 田 清 弘	080-4636-7497
	京丹波町	塩 貝 文 明	090-6598-4672
中丹ブロック	福知山市	長 澤 寿 郎	090-6084-6965
	舞鶴市	森 治 男	080-3629-8199
	綾部市	荒 田 好 彦	080-7935-0143
丹後ブロック	宮津市、京丹後市(久美浜町)	増 田 英 雄	080-9464-7205
	京丹後市(峰山町、大宮町)	常 陸 勝 弘	080-3627-4022
	伊根町、与謝野町	泉 良 悟	090-9948-4698
	京丹後市(網野町、丹後町、弥栄町)	石 嶋 政 博	090-6097-4706

一般社団法人京都府農業会議

(京都府農地中間管理機構)

ホームページ▶ <https://www.agr-k.or.jp/~kyoto-j/farmbank/>

お問い合わせは、お住まいの市町村 又は 京都府農業会議(京都府庁西別館 2 階) (075-417-6868)まで

※京都府農業会議は法律に基づいて京都府知事から農地中間管理機構の指定を受けた公的な機関です。

次世代型集落営農「集落連携100ha 農場づくり事業」が始動

今、なぜ「集落連携100ha農場」なのか

「集落連携100ha 農場づくり事業」の地区指定が始まっています。「次世代型 集落営農」とはどんなものなのでしょう。

府内に多くの集落営農組織がありますが、その大半がリーダーの後継者不足や耕作地の分散、組織へ草刈り等の負担が集中するなどの悩みを抱えています。

また、住民の高齢化、人手不足によって地域環境の保全さえ懸念される地域もみられます。

「集落連携100ha 農場」はこれらの課題を解消するため、従来の「営農組織をつくって農地を守る」という発想を転換。全戸参加でつくった一般社団法人が耕作者（個人や営農組織）の営農を応援するとともに、地域の諸課題にも対応していこうというものです。一般社団法人に専従者

がおけるよう約100haの農地規模となる複数集落で取り組みむことが名前の由来です。

一般社団法人は農地中間管理事業を活用して耕作地の団地化を進めるとともに多面的機能支払い活動組織として、非農家も含め全戸で営農環境の保全にあたり、耕作者を応援します。このほか移住者の受け入れや地域活性化など、地域の課題に沿った、一般社団法人ならではの幅広い取り組みが可能になります。

「集落連携100ha 農場づくり」は、みんなでこれからの農業と地域のことを考える、まさに京力農場プランの話し合いから始まります。

詳しくは市町村、府広域振興局または一般社団法人京都府農業会議に御相談ください。

農業者年金制度のポイント

安心の制度設計、税制面に大きな優遇

農業者年金の6つのポイント

- ① 農業に従事する方なら広く加入できる
- ② 少子高齢時代に強い積立方式・確定拠出型の年金
- ③ 保険料の額は千円単位で自由に決められる（月額2万円～6万7千円）
- ④ 終身年金で、80歳前に亡くなった場合は、死亡一時

金が遺族へ支給される

- ⑤ 保険料の金額が社会保険料控除されるなど税制面の優遇措置がある
- ⑥ 認定農業者など一定の要件を満たす農業者には保険料の国庫補助がある

詳しくは、地元の農業委員会にお尋ねください。

(独)農業者年金基金 HP <https://www.nounen.go.jp/cp/>

農業法人

ニュース

—京都府農業法人経営者会議の取り組み—

■令和3年度京都府農業法人経営者会議総会開催

7月1日（木）、午後からホテルセントノーム京都において、令和3年度（第26回）京都府農業法人経営者会議総会を開催されました。

今年度の総会も、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、最少人数（役員、顧問、監事）で開催することとなり、2年連続となってしまいました。

会員の皆様には総会への出席をお控えいただき、書面決議か委任状をもって議事の表決をお願いすることとなりました。

総会では、令和2年度事業報告・決算報告、令和3年度事業計画・予算が提案され、原案どおり承認され、新型コロナウイルス感染拡大で、農業のサプライチェーン寸断の影響が出てきている中、迅速な会員の状況把握や支援対策等の要請を行っていくことと、会員の新規加入の推進を図っていくことを決定されました。

また、今年度の総会では、役員任期満了に伴う理事及び監事の選任が行われ、18名の方々を選任、総会を終了されました。

総会終了後、新たな理事及び監事により、役員会を開催、会長には（株）村田農園代表取締役 村田正己氏が選任されました。

今期の役員に選任された方々は、以下のとおりです。

会 長	（株）村田農園	代表取締役	村田 正己氏
副会長	（農）日本海牧場	代表理事	山崎 高雄氏
副会長	（株）野木源	代表取締役	野木 武氏
副会長	（有）オアシスランド	代表取締役	大崎 克巳氏
副会長	（株）あぐり翔之屋	代表取締役	森上 翔太氏
監 事	（農）美山おもしろ農民倶楽部	代表理事	外田 洋一氏
監 事	京和あずま（株）	取締役	東 テル子氏
理 事	（株）農夢	代表取締役	白波瀬清孝氏



理 事	（株）味歩里	代表取締役	桐村 正典氏
理 事	（株）新田農園	代表取締役	新田 尚志氏
理 事	（株）西陣屋	代表取締役	田中 武史氏
理 事	（有）京都ファーム	代表取締役	梶谷よしみ氏
理 事	（株）京都知七	代表取締役	重 義幸氏
理 事	（株）山末農園	代表取締役	村田 和弘氏
理 事	ロックファーム京都（株）	代表取締役	村田 翔一氏
理 事	辻製茶（有）	代表取締役	辻 幸博氏
（任期：令和3年7月1日から令和5年総会開催日）			

また、役員会において（株）杜若園芸 代表取締役 岩見悦明氏、こと京都（株）代表取締役 山田敏之氏が顧問として選任されました。

今回の総会で任期満了により、会長を退任された「こと京都（株）代表取締役 山田敏之氏」、副会長を退任された「（株）農夢 代表取締役会長 四方勝一氏」には、多年にわたり経営者会議の発展に御尽力いただきました。ご苦勞様でした。今後とも、ご協力をいただきますようお願いいたします。



第26回総会／書面決議



お疲れ様でした。今後ともご指導
よろしくお願いいたします。



新会長 （株）村田農園
代表取締役 村田正己氏



新役員

「会員の言葉に耳を傾け、京都府等関係団体との連携を図りたい」

編集局から

◆新型コロナウイルス感染症の流行も第5波の襲来を乗り越え、賛否両論がある中でオリ・パラが開催され、多くの感動を与えてもらいました。10月に入り、感染者数も減ってきています。早く日常の生活が戻れば良いのですが、まだまだ予断を許さない状況です。

今回は、京都市北区で京野菜を生産する樋口農園と久御山町で淀苗、京野菜を生産する（株）村田農園取材させて頂きました。

緊急事態宣言の中の出材となりましたが、協力をいただきありがとうございました。

取材させていただいたお二人の経営者は、地域に溶け込み地域貢献と消費者との対話を大切にしながら、農業経営に取り組んでおられました。

課題は、都市型農業での規模拡大と合理的な農地の集約。今後の活躍を期待しています。

発行／2021年10月

発行者 （一社）京都府農業会議

〒602-8054 京都市上京区出水通小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075(417)6847